

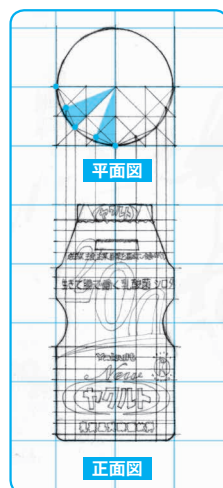
TRAINING 11 | ヤクルト容器

1968年にガラスびんからプラスチック容器にリニューアルされたデザインです。以来、乳酸菌飲料のスタンダードとして、今も基本的なフォルムは変わっていません。特徴的なくびれは、ガラスびん時代にはなかったもので、持ちやすく、落としにくい位置になるよう工夫されています。ここでは、容器下部の曲面ロゴまわりの描き方も解説します。

プラスチック容器の表面印刷は時代に応じて変わってきましたが、容器本体の形は今も変わっていません。合理性を追求して生みだされた理想的な形といえます。



正面図をグリッドに当てはめます。平面図には、外形、くびれ部分、ふた部分、などの円を描き入れておきます。



■ 曲面の分割グリッド

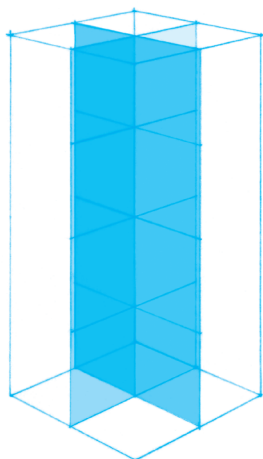
ステップ7で文字や柄を曲面に描くときに用いる分割グリッドです。曲面の場所により文字や柄の見え方は違ってきます。このように平面図のグリッドを1/2に分割し対角線を利用することで文字や柄をプロットしやすくなります。



描き方の手順

STEP 1

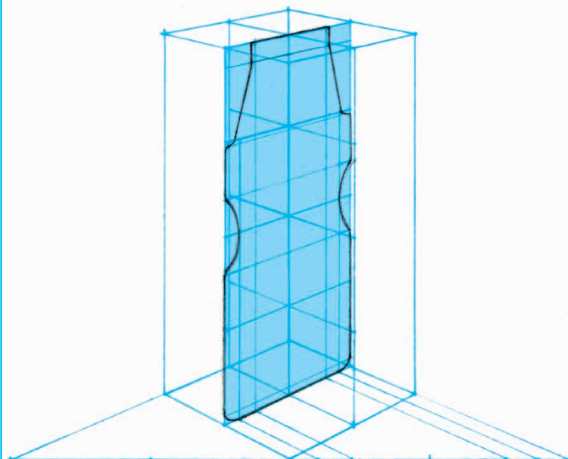
図面を参照して $2 \times 2 \times 4$ のグリッドを設定します。



中心を通る2面に正面図をプロットできるようにグリッドを割っておきます。

STEP 2

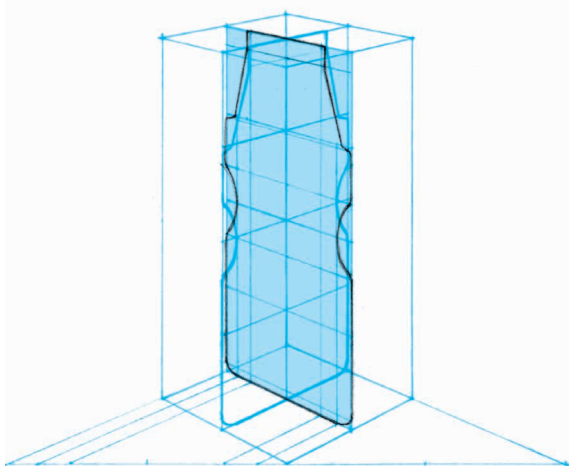
まず右側の面に正面図をプロットします。



縦方向はそのまま定規を当てて正面図の高さをプロットします。横方向は奥行きなのでだんだん小さくなります。手前に置いた定規に寸法をプロットし、奥行き方向に消失させて位置を出します。

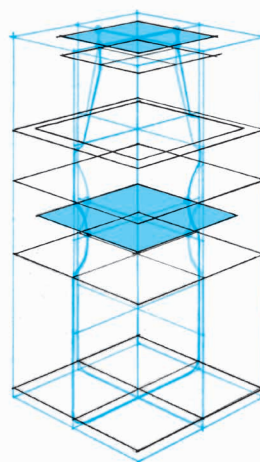
STEP 3

ステップ2と同様にもう一方の面にも正面図をプロットします。



STEP 4

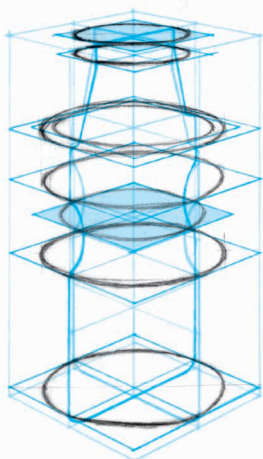
ボトルの各部分で外接する正方形を描きます。



ボトルの一番太い部分はグリッドに内接しています。ふたや、くびれの部分に外接する正方形（色アミ部）は、ステップ2と3で描いた正面図との交点を通る正方形になります。

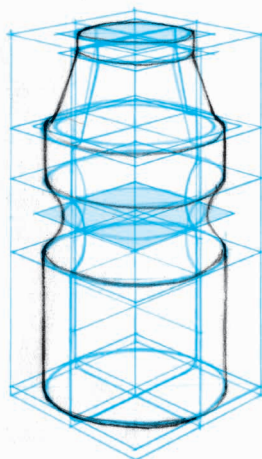
STEP 5

ステップ4で描いた正方形に内接する円（楕円）を描きます。



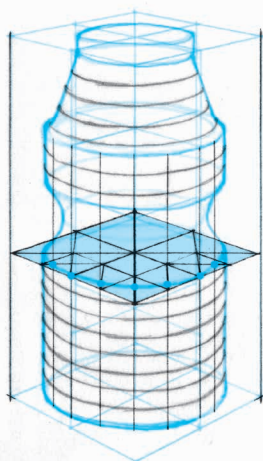
STEP 6

ステップ5で描いた円の外形を結んで輪郭線を描きます。



STEP 7

ボトルの文字を描くためにグリッドを入れます（P.100正面図、平面図参照）。

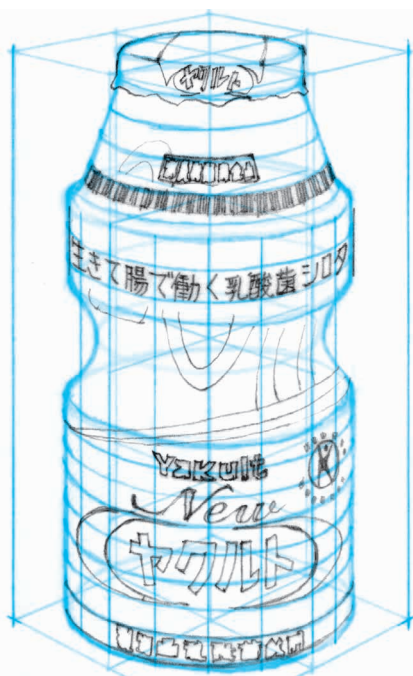


グリッドの対角線と円周の交点を下に降ろしていった線が、正面図での16分割線になります。

※この場合、どの高さの正方形で作業してもかまいません。ここでは、つぶれやゆがみの少ない真ん中あたりの正方形を使用しています。弧を描いた高さの線は文字を入れるためのアタリとなります。高さ方向は定規で測ってプロットします。

STEP 8

16分割線をガイドにして、文字や柄を描き込みます。



垂直の線は縦方向にそのまま描けばよいですが、水平の線はすべてボトルの曲面に沿う意識で描きましょう。



なぞってみましょう

STEP 1～8の手順をよく見て描きましょう。

One-point Advice

基本的なアプローチは、TRAINING 02のしょうゆびん (P.62) と同じで、フォルムが変化する位置の断面をよりどころにします。この課題では、容器表面に沿ってプリントされた文字の描き方にもトライしてみましょう。

